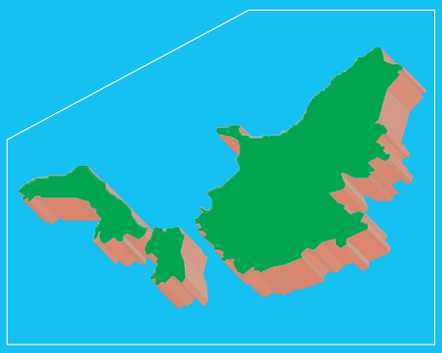
保存版

南海トラフ巨大地震・津波にそなえて



津波防災マップ

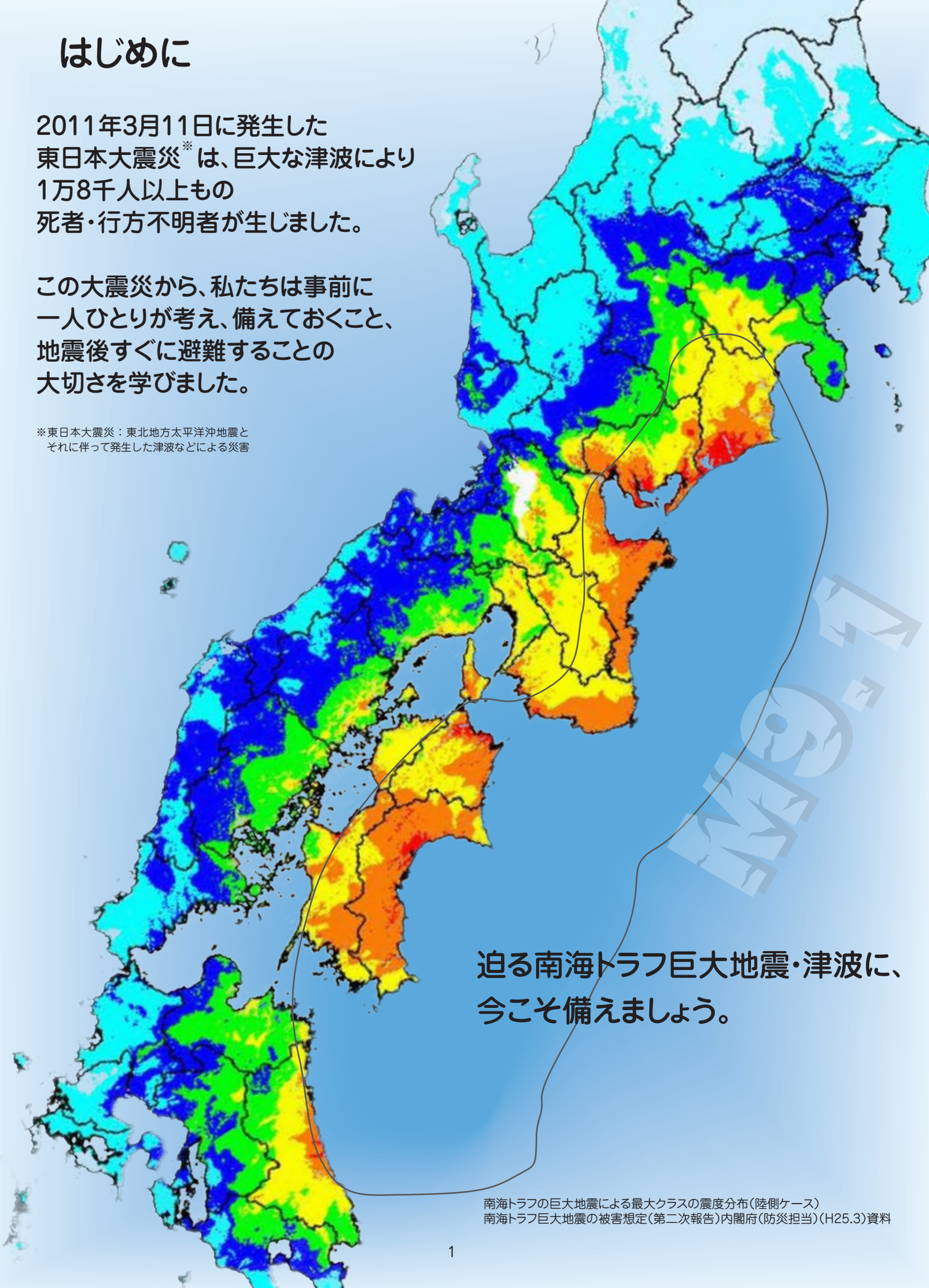
平成26年3月　阿南市

はじめに

2011年3月11日に発生した
東日本大震災※は、巨大な津波により
1万8千人以上もの
死者・行方不明者が生じました。

この大震災から、私たちは事前に
一人ひとりが考え、備えておくこと、
地震後すぐに避難することの
大切さを学びました。

※東日本大震災：東北地方太平洋沖地震と
それに伴って発生した津波などによる災害



迫る南海トラフ巨大地震・津波に、
今こそ備えましょう。

南海トラフの巨大地震による最大クラスの震度分布（陸側ケース）
南海トラフ巨大地震の被害想定（第二次報告）内閣府（防災担当）（H25.3）資料

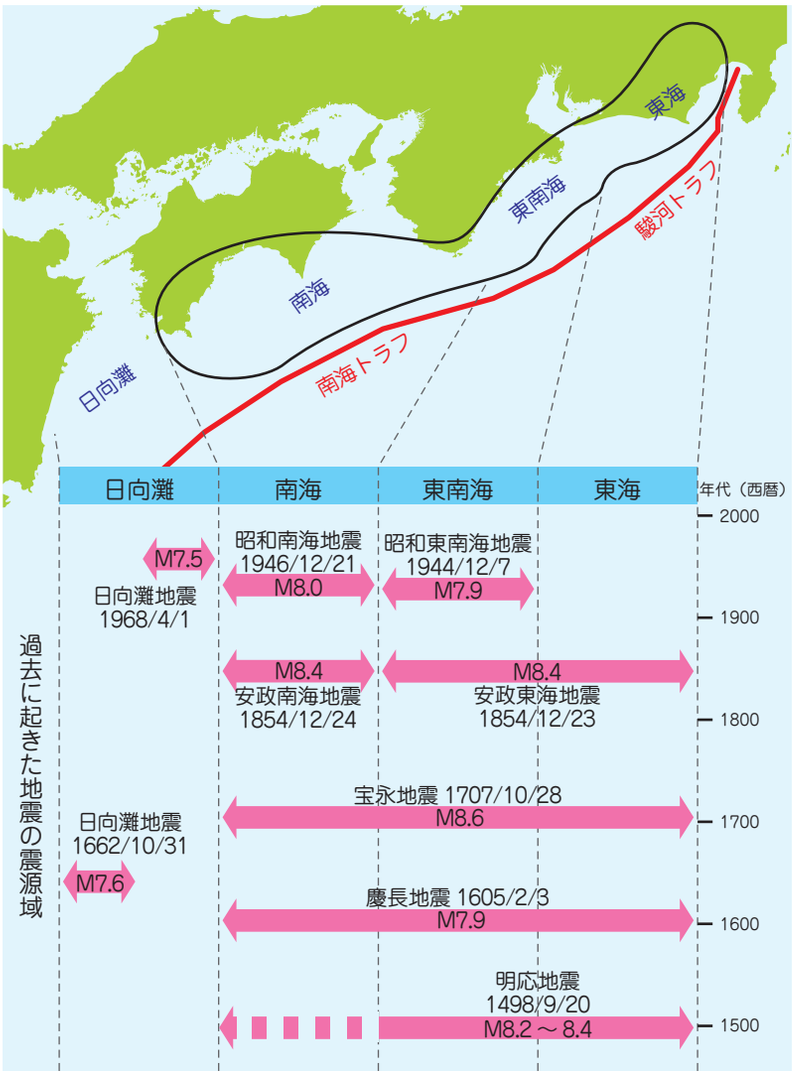
南海トラフ巨大地震

近い将来必ず起こる南海トラフの地震

南海トラフ沿いの地域は右図のように、これまでおよそ100 ～ 150年の間隔でM8クラスの巨大地震が繰り返し発生しています。次の南海トラフの地震は、今後30年以内に60%～70%、今後50年以内に90%程度以上の確率で発生するとされています※。

また国は、東日本大震災を踏まえ、あらゆる可能性を考慮し、最大クラスの地震・津波を想定した見直しを行いました。この地震・津波は、発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらすものです。決して次に起こる地震・津波を予測したものではありません。

※2013年1月1日評価時点, 地震調査研究推進本部・地震調査委員会

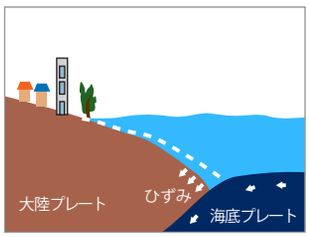


正しく恐れる

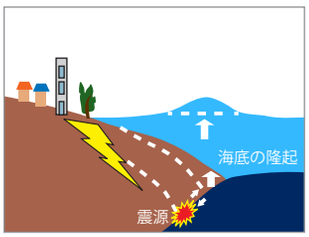
過度に恐れたり、投げやりにならず、正しく恐れましょう。

正しく恐れるとは、『それぞれが想定される災害をよく理解し、対策に取り組み、被害を減らそう』ということです。

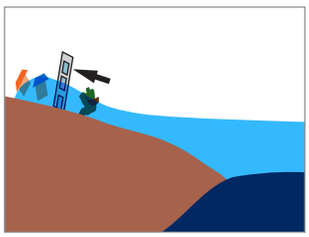
南海トラフ巨大地震と津波災害発生のメカニズム



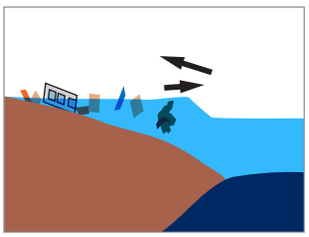
海底プレートが大陸プレートの下に潜り込み、大陸プレートの先端部にひずみが蓄積されます。



ひずみが解放され、海底が隆起し(**地震発生**)、海面が盛り上がります。(**津波発生**)



大量かつ強烈な勢いのある海水が陸域に押し寄せます。(**津波来襲**)

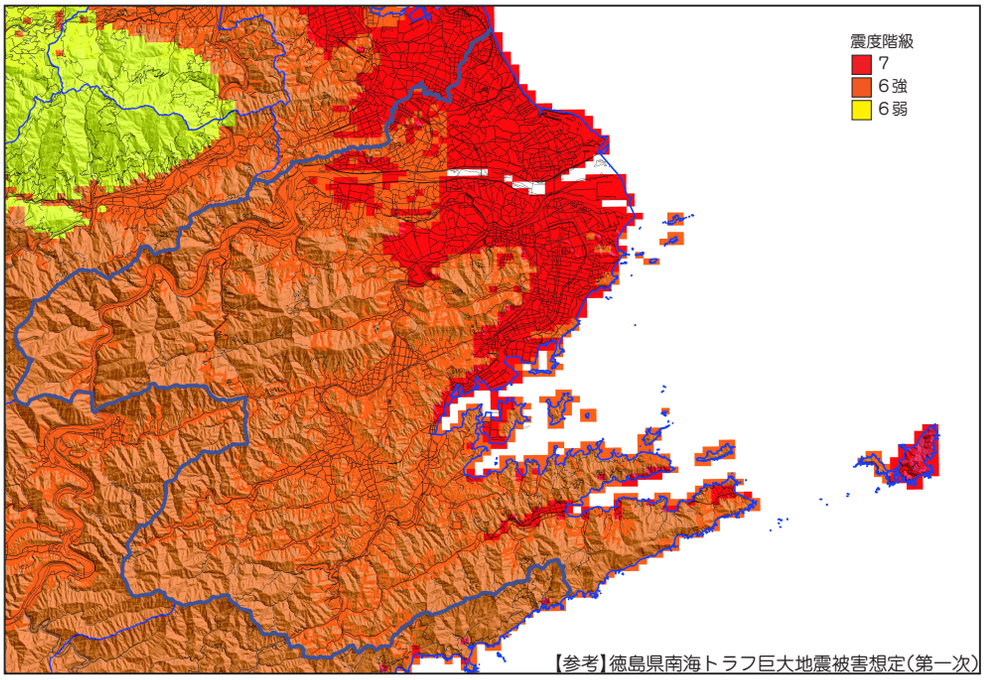


強い押し波や引き波により、車や建物も流失します。津波は繰り返し何度も襲ってきます。

想定される被害

地震による揺れ（震度）

阿南市では、南海トラフ巨大地震で震度7または6強の非常に強い揺れが長ければ約5分間も続くと予測されています。



この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。（承認番号 平25情使、第612号）、国土数値情報（行政区域データ）国土交通省

震度 7

- 固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。
- 鉄筋コンクリート造の建物でも、耐震性の低いものは倒れるものが多くなる。

震度 6強

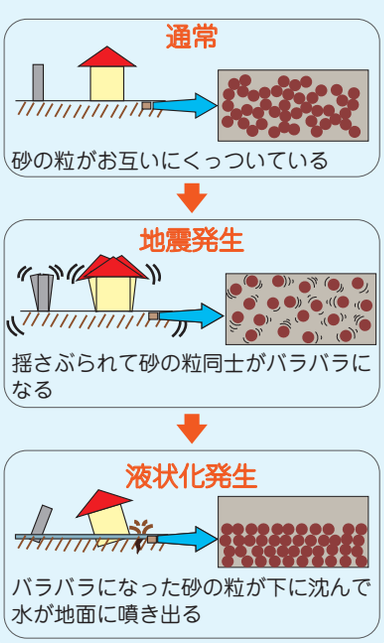
- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
- 耐震性の低い木造建物は傾くものや倒れるものが多くなる。

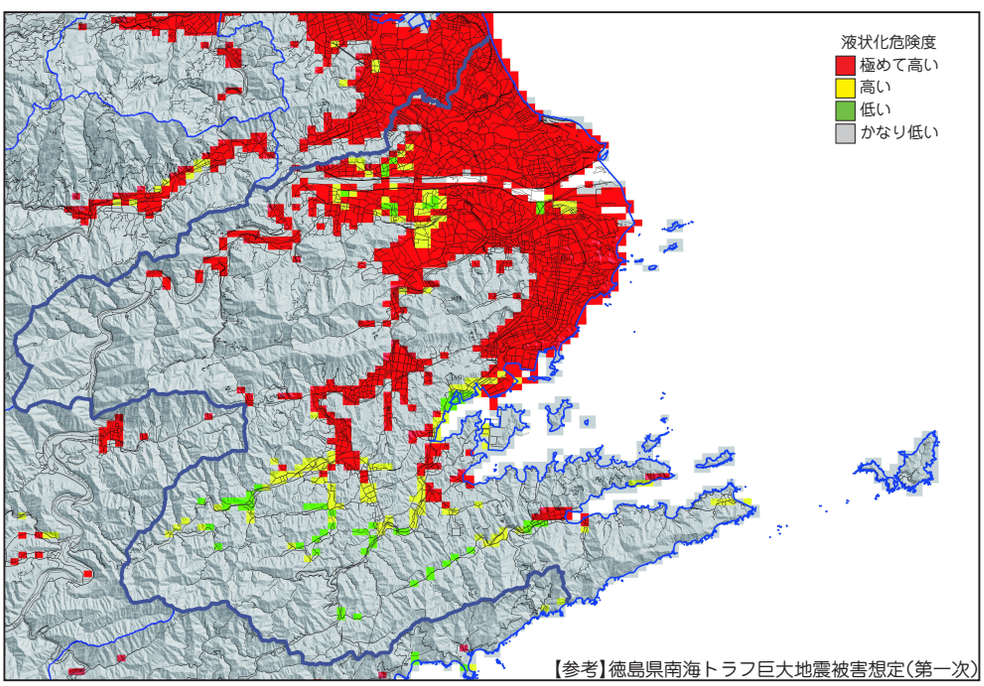
※気象庁震度階級関連解説表より

液状化危険度

揺れにより液状化現象も発生します。「液状化現象」とは、地震の揺れによって地盤が一時的に液体のようになる現象で、液状化危険度が高い地域では、建物や堤防・護岸、道路などが傾いたり崩壊したりします。

液状化現象の発生メカニズム





この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。（承認番号 平25情使、第612号）、国土数値情報（行政区域データ）国土交通省

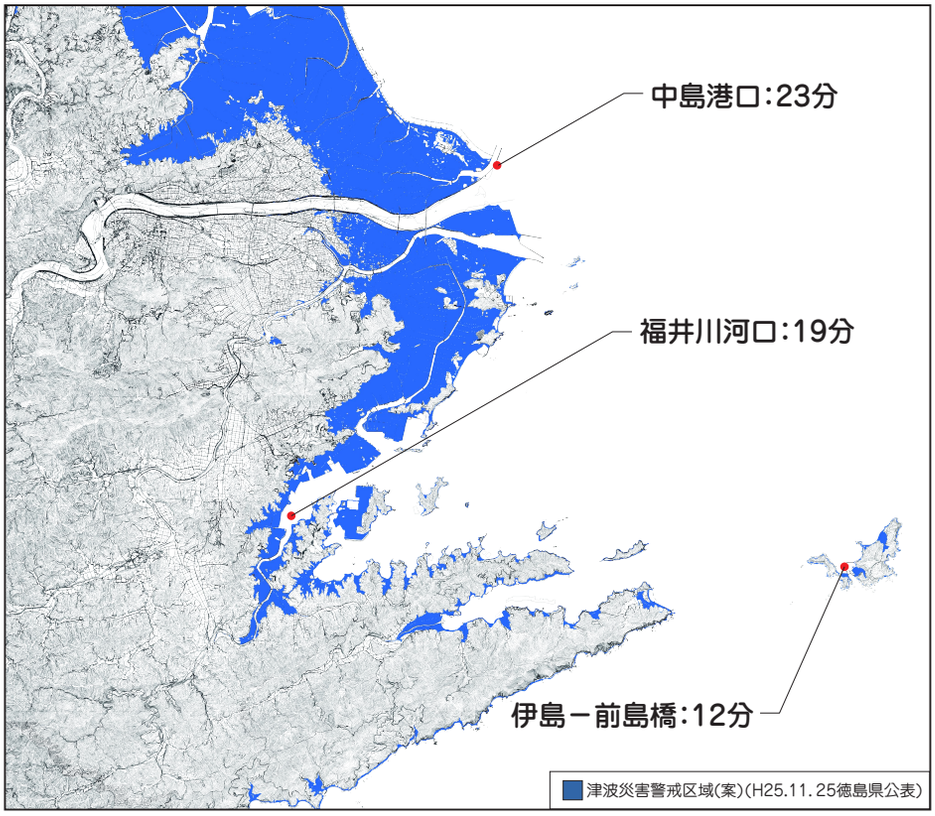
津波影響開始時間

津波からの避難は、「より早く、より高く」が基本です。なかでも、速やかな避難開始が重要です。津波が到達するまでに避難できることを目指しましょう。

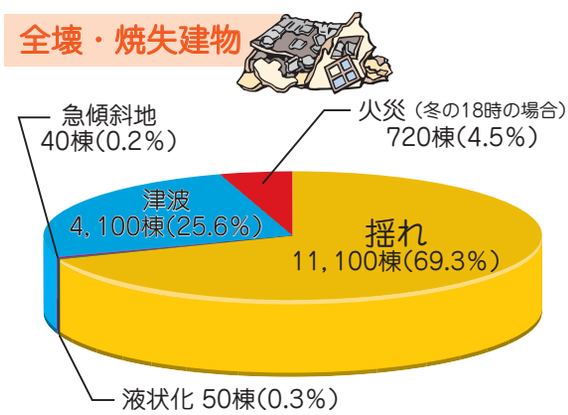
津波影響開始時間※は、地震発生後、初期水位から20㎝以上の変化が生じるまでの時間を表しています。

津波は、引き潮から始まるとは限りません。場所によっては、突然海面が盛り上がることもあるので、地震の後、決して海の様子を見に行ったりしないでください。

※徳島県津波浸水想定(H24.10.31)



阿南市の被害

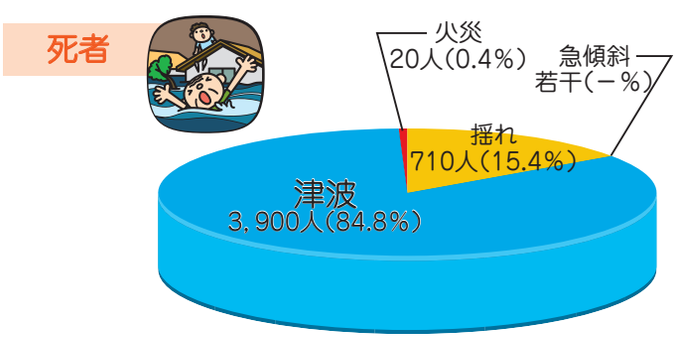


【参考】徳島県南海トラフ巨大地震被害想定(第一次)

阿南市では、市内の全建物約28,200棟のうち、56.8%にあたる約16,000棟が全壊または焼失すると予測されています。

被害の内訳を見ると、約70%が揺れによるもので、次いで津波は約25%、火災は約5%とされています。

人的被害について見ると、冬の深夜に地震が発生した場合、市の人口約76,000人に対して、6.1%にあたる約4,600人が死亡する結果が示されています。内訳を見ると、津波による死者が約85%(3,900人)、次いで揺れが約15%(710人)とされています。



【参考】徳島県南海トラフ巨大地震被害想定(第一次)

これらの結果から以下の対策が効果的だと考えられます。

1. 住宅の耐震化
2. 家具類の転倒防止対策
3. 津波からの速やかな避難

地震の対応と津波からの避難

緊急地震速報を見聞きしたら

●周囲に知らせる
●避難口（出口）を確保
●運転中はハザードランプを点灯し、緩やかに減速
●門や塀、自動販売機やビルから離れる

※震源が近いときや直下型地震の場合、緊急地震速報が強い揺れに間に合わないことがあります。
状況に応じて、あわてずに、身の安全を確保しましょう。

揺れを感じたら

あわてずに、身の安全の確保。

●頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難
●あわてて外に飛び出さない（落下物や車が危険）
●あわてた行動はケガのもと

※火の始末は揺れがおさまってからにしましょう。

津波避難の心得　「より早く、より高く」

速やかな避難開始

●弱くても長い時間揺れを感じたときや、大津波警報や津波警報が発表されたら直ちに避難（判断に迷ったら避難）
●海や河口の様子を見に行かない
●テレビを見続けたり、地震の片付けをしない
●直ちに海岸や河口から離れ、高台などの安全な場所へ速やかに避難

●遠くより、高いところを目指す
●ヘルメットや防災頭巾をかぶり、非常持出袋を背負って、靴底の厚い靴を履く
●余震に備え、被害を受けた建物やブロック塀、自動販売機、電柱等から離れて避難
●隣近所で助け合い、声を掛け合って

原則 徒歩避難
車での避難は、事前に地域で十分な検討が必要です。

率先避難
率先して避難することで、自分の命を守り、周囲の命も救われます。

最善を尽くす
決してあきらめず、その時・その場で、できるかぎりの避難行動をとりましょう。

避難できたら

●津波は繰り返し襲ってきます。警報・注意報が解除されるまで、低地には絶対に戻らない
●困っている人・ケガをしている人の手助けを
●ラジオ等で正しい情報をつかみ、デマに振り回されない
●安否確認に協力を
●より高い津波に備えた対応を考え準備しておく

わが家の安全対策

住宅の耐震化

阪神・淡路大震災では、亡くなった方の多くが建物の倒壊などによる圧死でした。特に耐震性のない木造住宅で大きな被害がでました。

地震で命を失わないように、まず、わが家の耐震性を知り、必要な備えをしましょう。

耐　震　診　断

耐震診断は、地震に対してどの程度の安全性があるかを判定するものです。
耐震診断員が、地盤や基礎、壁の強さ、壁の配置、劣化度などについて現地調査を行い、上部構造の評価を数値で表します。
対象住宅：平成12年5月31日以前に着工された木造住宅(3階まで)

安全・安心なリフォーム支援事業	耐震改修支援事業
安全・安心なリフォームとは? あまり費用をかけずに、命だけは守る部分的な耐震補強を行う工事です。(簡易な耐震化工事) 補助金額・・・工事費用の**1/2以下**で、最高**40万円**まで ※市による上のせ補助事業あり	耐震改修工事とは? 基礎や壁の補強、劣化箇所の取替えなどを行う工事です。住宅によって弱点が異なりますので、工事をしなければならない部位が異なります。 補助金額・・・耐震改修工事の費用の**2/3以下**で、最高**60万円**まで ※市による上のせ補助事業あり

『安全・安心なリフォーム支援事業』と『耐震改修支援事業』は併用できません。どちらかをお選びください

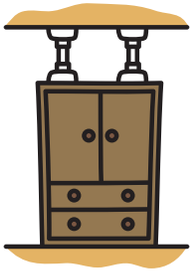
『耐震診断』、各支援事業についてのお問い合わせ・お申し込み・・・阿南市住宅建築課(電話0884-22-3431)

とくしま耐震建替応援ローン制度

『耐震診断』を受け、評点が1.0未満と判定された住宅について建替えや新築住宅の購入などを対象に、金融機関が準備するお得なローンで支援する制度です。
※詳しいお問い合わせは各金融機関へ

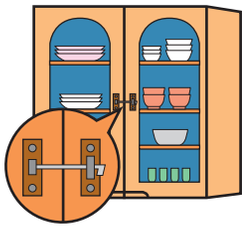
家の中の安全対策

速やかに避難するためにも、地震でケガをしないことが重要です。地震に備えて、家の中の安全対策は、とくに家族がいることが多い場所の周辺から始めましょう。また、地震でガラスが割れ飛び散らないように、窓ガラスや食器棚のガラスには飛散防止シートを貼りましょう。家具の下敷きや室内閉じ込め等の危険を避けるため、寝室や寝室の入り口には、できるだけ家具を置かないようにしましょう。



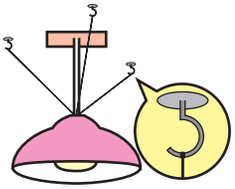
タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定。
二段重ねの場合は、つなぎ目を金具でしっかり連結。



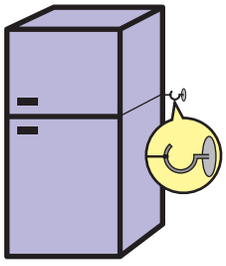
食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下に、軽い食器は上のほうに置く。扉が開かないように留め金具をつける。



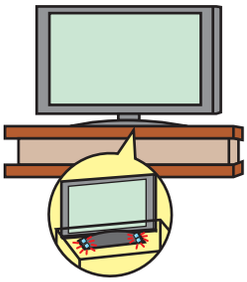
照明器具

チェーンと金具を使って数箇所留める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで留める。



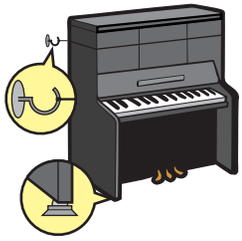
冷蔵庫

2ドアの場合は、扉と扉の間に針金などを巻いて、金具で壁に固定。



テレビ

できるだけ低い位置に固定して設置。



ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取り付けた金具などで固定。
脚には、滑り止めをつける。

非常持出品と備蓄品

減災グッズを備えよう

0次の備え
いつもケータイ！

いつも携帯できそうなものは、いつも使うバッグやポケットに入れ、身につけよう。

1次の備え
非常持ち出し品

サッと持ち出して逃げられるコンパクトなリュックを1つ。逃げる時にこれだけは持っていたいという最低限の備え。

2次の備え
安心ストック

ライフラインが途絶え、助けが届かなくても何日かは自給自足できる物品を備蓄しよう。
押し入れや物置などに、ケースにまとめて、取り出しやすく、運び出しやすく。

減災グッズリスト

分類		0次 携帯	1次 持出	2次 備蓄
水	飲料水	500㎖	1.5ℓ程度	3ℓ/人·日程度
食	携帯食	あめ玉、チョコレート 栄養補給食品　等		
	非常食		乾パン	アルファ米
	保存食		お米、乾·干物 インスタント食品、缶詰	
装備		ホイッスル 帽子 ミニライト	防災ずきん ヘルメット 作業用手袋 運動靴	予備電池
			発電·充電式懐中電灯	
道具			ハサミ ナイフ 缶切り ロープ(救助·避難用)	ラップ アルミホイル 鍋 カセットコンロ ボンベ、工具
情報	ラジオ	携帯ラジオ	予備電池	
			スピーカー付ラジオ	
	携帯電話·スマートフォン	携帯電話·スマートフォン		
		予備バッテリー 充電器		
	身分証明	運転免許証(コピー) 保険証(コピー)		
	筆記具	ペン、メモ帳 連絡メモ、備えリスト		
			油性マジック	
	現金	財布	公衆電話用10円玉 (1週間程度しのげる額)	

分類		0次 携帯	1次 持出	2次 備蓄
救急	救急用品	ばんそうこう	消毒薬 脱脂綿 ガーゼ·包帯 三角巾　等	
			毛抜き·とげ抜き	
	薬	持病薬	常備薬 お薬手帳	
衛生		マスク		
		簡易トイレ、トイレットペーパー ティッシュペーパー ウェットティッシュ		
				石けん 歯磨きセット
衣	衣類		下着·衣類	
		ポンチョ·雨合羽		
防寒		使い捨てカイロ		
			サバイバルブランケット (簡易防寒具)	毛布
汎用		ハンカチ (大判) 手ぬぐい	タオル	バスタオル
		安全ピン		
		ポリ袋(大小あわせて10枚程度)		
			レジャーシートか ブルーシート 新聞紙、段ボール	
			ライター 布ガムテープ	

上記のグッズの他、それぞれで必要なもの（コンタクトレンズや粉ミルク、オムツ等）を考えて追加しましょう。

防災活動のすすめ

積極的に取り組もう

まずは、自分と家族の命を守るための対策から始めましょう。

家族で安否確認の方法や避難先について話し合い、避難先まで歩いて経路を確認したり、家具を固定するなど、防災対策に積極的に取り組みましょう。

地域で行われる避難訓練などの自主防災活動に積極的に参加しましょう。

訓練により課題を把握し、改善を加え、再び訓練で確認するといった積み重ねにより、地域の防災力をアップしましょう。

津波警報・注意報の分類と とるべき行動

地震発生後、直ちに、防災無線や携帯電話、テレビやラジオを通じて地震情報と津波情報が発表されます。

正しい情報の収集に努めるとともに、津波発生の恐れがあるときは、いち早く避難してください。

	予想される津波		とるべき行動	想定される被害
	数値での発表（発表基準）	巨大地震の場合の表現		
大津波警報	10m超（10m<高さ）	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、直ちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。 津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。 ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう。	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。
大津波警報	10m（5m<高さ≦10m）	巨大		木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。
大津波警報	5m（3m<高さ≦5m）	巨大		木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。
津波警報	3m（1m<高さ≦3m）	高い		標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。
津波注意報	1m（20cm≦高さ≦1m）	（表記しない）	海の中にいる人は、直ちに海から上がって、海岸から離れてください。津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしないでください。	海の中では人は速い流れに巻き込まれる。養殖いかだが流失し小型船舶が転覆する。

・震源が陸地に近いと津波警報が津波の襲来に間に合わないことがあります。「揺れたら避難」を徹底しましょう。
・津波は沿岸の地形などの影響により局所的に予想より高くなる場合があります。より高い場所を目指して避難しましょう。
・地震発生後、予想される津波の高さが20cm未満で被害の心配がない場合、または津波注意報の解除後も海面変動が継続する場合には、「津波予報（若干の海面変動）」を発表します。

【参考】気象庁資料

津波時の避難先・市指定津波避難場所

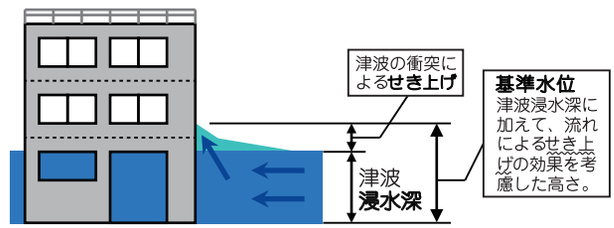
津波時の避難先について

東日本大震災の津波災害を教訓として、国や県では、津波からの避難の考え方や、津波浸水想定が見直されました。マップに示した津波時の避難先は、こうした最新の考え方や想定結果に基づき、徳島県公示の基準水位※より高いスペースで、現時点において確保できた場所を整理したものです。

市指定津波避難場所　津波災害警戒区域、または同区域近傍の公共施設で、地域防災計画に位置づけた避難場所。

緊急避難場所　津波災害警戒区域の外側の高台や施設で、周辺の基準水位より高い場所。

津波避難ビル　原則、津波災害警戒区域内の鉄筋コンクリート造の建物で、基準水位より高い階や屋上がある建物。



マップに示された避難先だけでなく、基準水位より高い近くの高台や、昭和56年6月以後に建てられた鉄筋コンクリート建物等、新耐震設計基準を満たす建物を把握しておくことも、逃げ遅れた場合に有効です。

※基準水位の詳細値は徳島県ホームページで閲覧できます。

市指定津波避難場所

地区	避難場所名	電話(0884)
那賀川	ゆたか野地区防災公園(整備中)	―
	今津小学校 2階以上	42-0702
	黒地文化センター 2階	42-2085
	那賀川公民館 2階	21-2019
	那賀川中学校 2階以上	42-0058
	那賀川スポーツセンター 2階	42-0390
	平島小学校 2階以上	42-0039
	那賀川公民館平島分館 2階	42-2902
	(株)レーザーシステム 徳島事業所 屋上	―
	科学センター体験館・天文館 2階以上	42-1600
羽ノ浦	富岡東高等学校 羽ノ浦校	44-2054
	羽ノ浦小学校	44-2053
	勤労女性センター 2階以上	44-5611
	情報文化センター	44-5000
	羽ノ浦公民館	44-1120
	羽ノ浦中学校	44-2045
中野島	横見小学校 2階以上	22-0363
	中野島総合センター	22-1669
宝田	阿南工業高等学校	22-1408
富岡	桑野川防災ステーション	―
	富岡西高等学校	22-0041
	徳島県南部総合県民局阿南庁舎 3階以上	24-4111
	文化会館・駐車場	21-0808
	富岡公民館	22-1028
	阿南琴江寮・富岡保育所 2階	22-0765
	牛岐城趾公園高台	24-9002
	阿南社会福祉会館 2階以上	―
	阿南ひまわり会館 2階以上	23-6600
	阿南労働総合庁舎(ハローワーク) 2階以上	22-2016
	富岡東中・高等学校 2階以上	22-2120
	富岡小学校 2階以上	22-0066

地区	避難場所名	電話(0884)
富岡	富岡幼稚園 2階	22-0561
	徳島県南部総合県民局保健福祉環境部阿南庁舎(阿南保健所) 3階 休養室・廊下、屋上	22-0072
	スポーツ総合センター 2階	22-2300
	富岡東部地区防災公園(計画中)	―
	老人ホーム福寿荘 2階以上	23-3440
見能林	東部自然公園散策路	―
	阿南中学校 校舎 2階以上(改築中) 屋内運動場 3階以上(改築予定)	22-0539
	見能林公民館 2階	22-0501
	見能林小学校 2階以上	22-0506
	阿南工業高等専門学校 屋上	23-7100
	津乃峰総合センター 3階以上(計画中)	―
	津乃峰地区防災公園(整備中)	―
	津乃峰小学校 3階	27-0227
	津乃峰町新浜地区津波避難タワー	―
橘	橘こどもセンター 2階	26-8800
	橘地区防災公園	―
	橘小学校	27-0002
福井	旧クリーンセンター	―
	ふるさと館	34-2161
	大西地区津波避難タワー	―
	福井中学校 2階以上	34-2234
	福井小学校	34-2013
	福井保育所	34-2153
	福井町総合センター	34-2250
	福井コミュニティハウス	―
椿	椿小学校 2階以上	33-1004
	かもだ岬温泉保養施設	21-3030
	蒲生田小学校	―
椿泊	椿泊小学校グラウンド	33-0014

マップ

各マップの外枠の色は、9ページの表「市指定津波避難場所」の地区名の文字色・背景色と同色です。

封筒貼り付け

防災メモ

防災に関するお問い合わせ　阿南市 防災部防災対策課　電話 0884-22-9191

わが家の津波避難計画

マップを見ながら家族で話し合って、あらかじめ避難先を決めておきましょう。
また、実際に避難先まで歩いて避難経路の安全性を確かめ、避難にかかった時間を計っておきましょう。

第1候補避難先	**第2**候補避難先	**第3**候補避難先
危険な箇所	危険な箇所	危険な箇所
避難先までかかった時間 分　　秒 （避難した人　　）	避難先までかかった時間 分　　秒 （避難した人　　）	避難先までかかった時間 分　　秒 （避難した人　　）

緊急連絡先

日中に家族が過ごす場所の連絡先を確認したり、家族がお互いに安否を確認するための遠地の親せきを決めて記入しておきましょう。

名　前	勤務先・学校等	電　話	住　所	メ　モ

災害用伝言ダイヤル・伝言板

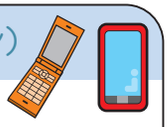
どの方法で安否確認するか決めて、練習しておきましょう。

災害用伝言ダイヤル（固定電話）

録音方法・・・171→ **1** →自宅等（被災地）の電話番号
→伝言（30秒以内）を入れる

再生方法・・・171→ **2** →自宅等（被災地）の電話番号
→伝言を聞く

災害用伝言板（携帯電話・スマートフォン）



災害発生時、各携帯電話会社とも、災害用伝言板サービスが利用できます。災害用伝言板は各携帯電話会社サービスサイトのトップページから利用できます。携帯電話等から安否情報を登録したり、確認することができます。体験期間等に利用してみましょう。

（ただし、アンテナ局の被災等により利用できないこともあります）

この冊子及びマップは、古紙パルプ配合率100％の再生紙を使用しています。